

令和7年度 専門職大学院法務研究科（法科大学院）（C日程）

小論文（未修者）

注 意 事 項

以下をよく読んで、間違いのないように受験してください。

1. 試験開始の合図があるまで、問題を開かないでください。
2. この問題冊子の3～5ページに問題が掲載されています。落丁、乱丁、印刷不鮮明などの箇所がある場合には申し出てください。
3. 解答用紙は（そのⅠ）・（そのⅡ）・（そのⅢ）の合計3枚です。解答用紙の追加は認めません。
4. 試験開始の合図があつたら、すべての解答用紙に受験番号を記入してください。
5. 解答は必ず解答用紙の所定の場所に記入してください。
6. 解答用紙には、黒鉛筆（シャープペンシル可）の他、黒または青の万年筆・ボールペンを使用してもかまいません。
7. 文字ははっきり、ていねいに書いてください。解答の文字が読みにくい場合、点を与えないことがあります。
8. 試験中、使用していない解答用紙は机の上に裏返しにしてください。

[このページは空白です。]

小論文（配点 100 点）

I. 長文読解

以下の文章は、瀧川裕英「くじ引き投票制の可能性」瀧川編『くじ引きしませんか？』（信山社・2022 年）からの抜粋（一部修正を含む）である。下記の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。（配点: 70 点）

デーヴィッド・ヴァン・レイブルックの分析では、現代の政治不信の根本原因は、民主主義それ自体にあるわけでもなければ、議会制民主主義にあるわけでもない。むしろ、選挙によって選出された政治家と有権者が乖離してしまうことこそが政治不信の原因である。つまり、現代の政治不信の原因は、元をたどれば選挙制に対する不信である。

選挙制に対する不信に対処すべく、選挙制を補完する方法としてヴァン・レイブルックが提唱するのが、抽選制による議会制民主主義である。具体的には、第一院は選挙で代表を選出し、第二院は抽選で代表を選出するという二重代表制である。

選挙制では代表を選ぶのは人である。抽選制ではくじが代表を選ぶ。くじの結果は、しばしば神の意思の表現として捉えられる。その発想からすれば、抽選制は神による代表の選出である。

このように選挙制と抽選制は選出主体が異なる。だが人による選出にせよ神（くじ）による選出にせよ、そこには一定の恣意が含まれている。「なぜその人が代表として選出されたのか」という問いに対して、「選出主体がそう選んだから」という以外、説明を与えることができないからである。選挙制には人の恣意が、抽選制には神の恣意が含まれている。

だれかの恣意に服従することは望ましくない。二重代表制は、二種類の恣意を混合することでそれを中和する制度として理解できる。代表集団をいずれか一つの恣意で充満させるのではなく、代表集団のなかに別種の恣意を入れることでそれぞれの恣意の影響を低減させる。

しかしながら、選挙制と抽選制の混合のさせ方は、二重代表制につきるわけではない。二重代表制は大きくいて、二つの選挙区を持つ。一つの選挙区では投票によって代表が選出されるのに対して、もう一つの選挙区では抽選制によって代表が選出される。これに対して、一つの選挙区で投票と抽選という二つの方法をとともに用いるのが、くじ引き投票制である。

二重投票制とくじ引き投票制の相違は、次のように描き出すことができる。二重代表制は選挙制と抽選制をいわば「並列」でつなぐ。二重代表制では、選挙制の回路と抽選制の回路の両方から出力された結果が、代表集団に反映される。これに対して、選挙制と抽選制をいわば「直列」につなぐのが、くじ引き投票制である。くじ引き投票制では、有権者の投じた票からくじ引きで当選表を選び、それが集合的決定の結果となる。

くじ引き投票制を本格的に提案したのは、アキル・リード・アマーである。アマーはくじ引き投票制を多数決と対比する。多数決では、投票の多数を獲得した候補者が選出される。これに対して、くじ引き投票制では、投じられた票からくじ引きによって選出される。具体的には、投票を集めた投票箱から、ランダムに一枚の票を引き、その票に名前のあった候補者が当選となる。例えば、A が 60%、B が 40%の票を獲得したとき、多数決では A が必ず当選する。これに対して、くじ引き投票制では A が当選する確率は 60%である。

アマーがくじ引き投票制を提案するとき、その背景にあるのは、「分断され孤立したマイノリティ」の問題である。米国におけるその典型例は、黒人である。分断され孤立したマイノリティは、多数決による集合的意思決定を繰り返しても、常に負け続け、意見が反映されない。このような少数派の取り扱いが民主的決定の正統性に対して難しい問題を突きつける。

この問題に対処するための有望な解決策としてアマーが提案するのがくじ引き投票制である。多数決では少数派の意見が採用される可能性はゼロである。これに対して、くじ引き投票制では、少数派の意見が採用される可能性は、多数派の意見が採用される可能性よりは低い、ゼロではない。

設問 1

本文では、二重代表制は「並列」的であると述べられているが、これがどういう意味であるか説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（その I）に行うこと。 (配点: 20 点)

設問 2

本文では、くじ引き投票制は「直列」的であると述べられているが、これがどういう意味であるか説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（その I）に行うこと。

(配点: 20 点)

設問 3

本文では、くじ引きへの注目は、現代の政治不信への一つの対処策であると述べられているが、政治不信の原因は何であり、くじ引きがどのような意味で対処策となっているのかを説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（そのⅡ）に行うこと。

（配点：30 点）

Ⅱ．論理力を試す問題

（配点：30 点）

以下の文章を読んで、下記の設問に答えよ。

あるコンビニエンスストアの店長は、弁当の値引き販売と廃棄処分についての方針を、つぎのように定めた。

以下のア、イのいずれか一方の条件のみを満たす場合には値引き販売をし、ともに満たす場合には廃棄処分とする。アとイの両方とも満たさない場合には、定価販売とする。

ア．賞味期限まで 2 時間以内になった。

イ．調理してから 10 時間以上経過した。

設問 1 「賞味期限までまだ 5 時間ある弁当は値引き販売されることはない。」という記述は真か、それとも偽か。また、その理由を説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（そのⅢ）に行うこと。

（配点 15 点）

設問 2 「店頭に陳列してから、2 時間以内に廃棄処分となる弁当もある」という記述は真か、それとも偽か。また、その理由を説明しなさい。

なお、解答は解答用紙（そのⅢ）に行うこと。

（配点 15 点）

[このページは空白です。]